

◎ 5年生 | 「生命のたんじょう」

おなかの中の赤ちゃんは独立した存在！

問いかけを工夫することで、子どもたちの興味は次々と広がっていきます。

○ 「へその緒」は胎盤につながっている

おなかの中の赤ちゃんは、どのようにして栄養をとっているのだろうか？

この問いに子どもたちは、「へその緒からもらう」と答えてくれます。へその緒の存在は、多くの子どもが知っています。「では、そのへその緒の先はどこにつながっているの？」「へその緒の中には何があるの？」と問い直すと、子どもたちも答えにつまづいて、「お母さんの胃につながっているのかなあ」などと言いながら、教科書の写真をよく見直したり、へその緒の仕組みについていろいろと考え始めたりします。

調べてみると、へその緒は胎盤につながっていて、へその緒の中には血管があり、血液が栄養や酸素を運んでいることがわかります。また、へその緒の血管は3本であることを子どもたちはとても不思議がります。

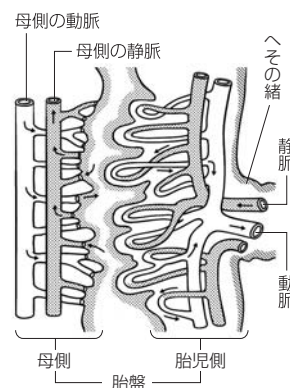


○ へその緒の中の血液は、誰の血液？？

血液が栄養や酸素を運びます。では、へその緒の中の血液は、お母さんの血液だろうか？

多くの子どもは、「お母さんの血が赤ちゃんに流れてくる」と考えるようです。子どもたちと話し合う中で、母と子で血液型が違う人も多いことから、へその緒に流れる血液はお母さんの血液ではなく、赤ちゃん自身の血液であることに気付かせます。お母さんのおなかの中にも、赤ちゃんはお

母さんの一部ではない、一個の独立した存在なのです。そしてお母さんと血液を混じえずに、栄養と酸素をお母さんからとり入れ、いらぬ物を返す働きをするものが「胎盤」であることを教えます。



○ 生まれ出て、自立して生きていくために

おなかの中の赤ちゃんは、ウンチやオシッコをするだろうか？

まず、おなかの中の赤ちゃんは羊水の中に浮かんで生活していることを話し合います。

さてウンチ。子どもたちは「羊水の中にウンチしたら、赤ちゃんがウンチまみれになっちゃうよ」と大騒ぎ。ウンチとは何かを話し合うと、ウンチは食べ物の栄養をとったカスであり、おなかの中の赤ちゃんは口から食べ物を食べてはいないので、食べ物のカスとしてのウンチはしないだろうと落ち着きます。

では、オシッコ。子どもたちはウンチ同様、しないと予想しますが、なんとオシッコは1日約500mlも羊水の中にしています。「子宮がパンクしちゃうよ」「赤ちゃんが飲んでいるのです」「えーっ！」と子どもたちは再び大騒ぎ。出産間近の赤ちゃんは、腎臓や胃腸での消化吸収の働きがもう備わっていて、生まれ出てすぐに各器官が働くようにおなかの中で練習しているのです。この時のオシッコは汚いものではなく、飲んで体内に再吸収されます。オシッコの成分・老廃物は血液で運ばれて、へその緒＝胎盤を通してお母さんに渡していることを補説します。